

認定看護師紹介 /  
集中ケア認定看護師



須東 光江 (すとう みつえ)

集中ケア認定看護師はおもにICUなどの急性期医療の現場で生命の危機的状況にある患者さんやご家族に看護ケアを提供するのが役割です。わたしは今年度3度目の更新審査を終え、認定看護師としての16年目がスタートしました。この15年の間に医療は目覚ましく進歩しており、ICUの役割も生命の維持だけでなく、ICUを退室したあとの生活を見据え、早期からのリハビリや生活に合わせた環境の調整など、患者さんにとってより質の高いケアを提供する場となっています。認定分野の名称も1998年開設当初は「重症集中ケア」でしたが2007年「集中

ケア」に改名され、今後「救急看護」と「集中ケア」が合併し「クリティカルケア」という新たな分野になります。社会の変化に柔軟に対応しながらも、より良いケアを実践するという私たちの使命は変わることはありません。



認定看護師紹介 /  
慢性心不全看護認定看護師



梶川 アユミ (かじかわ あゆみ)

心不全はあらゆる心疾患の終末像であり、増悪と寛解を繰り返しながら終末期へ至ります。慢性心不全看護認定看護師は、心不全増悪因子の評価を行い、患者さんの特性に応じて在宅療養を見据え、Quality of Lifeを高めるための療養生活行動を支援することを実践役割としており、2019年12月現在、宮城県では4名が活動しています。私は2019年7月に認定を受け、循環器内科病棟である西9階に勤務しスタッフと共に日々の看護を提供しております。

心不全は生活習慣の改善や内服の継続等で増悪を予防・回避することができますが、そこには患者さん

の並々ならぬ努力があってこそ可能となります。療養生活を継続しながらも患者さんが望むような生活の実現を大切に、やわらかい心と発想をもつ事を心掛け、最善の医療と質の高い看護の提供に努めてまいります。



# w i t h

東北大学病院  
地域医療連携センター通信  
[With/ウィズ]

vol.49

2020年1月29日発行

## お知らせ

### ●新しい診察券を発行しています

新しい診察券を発行しています。外来1F待合ロビー、⑥支払窓口となりの「診察券発行窓口」で発行していますので、お帰りの際や、診察、計算待ち時間などにお立ち寄りください。



新診察券

※患者番号の桁数が増えることに伴う対応です。

お問い合わせ：東北大学病院 医事課 外来係  
TEL. 022-717-7089 または 022-717-7090

## Information

### ●新患に関する変更のご案内

形成外科は2019年9月より新患日が変更になりました。

新患日：木・金（祝祭日・年末年始を除く）  
連絡先：022-717-7748（形成外科外来）

呼吸器外科は2019年10月より新患日が変更になりました。

新患日：月～金（祝祭日・年末年始を除く）  
連絡先：022-717-7877（呼吸器外科外来）

## 編集後記

早いものでもうすぐ今年度も終わります。卒業や入学、就職などで新生活が始まる方も多いと思います。新しい生活を気持ちよくスタート出来るように体調管理をしっかりしましょう。また、今年は東京オリンピックもあり、日本全国が熱く燃える1年になるのではないのでしょうか。今からとても楽しみです。（地域医療連携関係 澤木 翔子）

## 編集／発行

東北大学病院 地域医療連携センター  
TEL：022-717-7131 FAX：022-717-7132  
Eメール：ijik002-thk@umin.ac.jp  
ご意見・ご要望は地域医療連携センターまで  
お問合せください。



## 嚥下治療センター ディレクター 加藤健吾（耳鼻咽喉・頭頸部外科） 嚥下治療センターを設置しました

## Topics

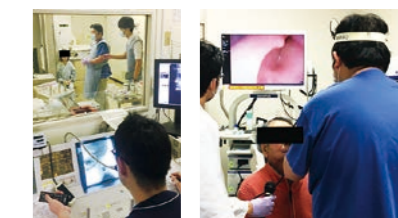
2011年以降、日本の死亡原因の第3位は肺炎（2017年以降は別項となった肺炎と誤嚥性肺炎の合計で第3位）です。肺炎死の9割以上は高齢者で、高齢者肺炎の8割は誤嚥性肺炎とされます。肺炎死増加の背景には日本社会の高齢化があり、今後増加が予想されます。

高齢者の摂食嚥下障害の特徴の一つとして、複合的な要因で発症する例が多いことが挙げられます。加齢に伴う嚥下機能の衰え（老嚥）に多発ラクナ梗塞、手術や外傷などの侵襲、低栄養、パーキンソン病、薬剤性嚥下障害、義歯の不適合や破損などの要因が加わり嚥下障害が顕在化する例が多くみられます。しかし各々の要因は軽度の事も多く、「歳のせい」とされがちです。また高齢発症の嚥下障害でもALSの初発症状だったなど、一概に「歳のせい」とするのは危ない例もあり、多角的な嚥下機能評価と原因診断が必要です。また嚥

下障害を生じる要因が多岐に渡るといふ事は、多方面からの包括的な治療やサポートが必要であることも意味します。

東北大学病院では摂食嚥下障害に対して包括的に診断と治療を行う嚥下治療センターを設置しました。嚥下治療センターは耳鼻咽喉・頭頸部外科、リハビリ科（肢体不自由、内部障害）、歯科（咬合回復科、口腔機能回復科、顎顔面口腔再建治療部）、リハビリ部、歯科衛生室、栄養管理室、看護部から構成され、これらの診療科、診療部門が共同して摂食嚥下障害に対して診断と治療を行います。リハビリや口腔ケア、栄養療法などに加えて、嚥下障害に対する手術（嚥下機能改善手術、誤嚥防止手術）や口腔内装置（口蓋接触補助床、軟口蓋挙上装置など）の作成も積極的に行っています。

嚥下治療センターの外来窓口は耳鼻咽喉・頭頸部外科内にあります。嚥下治療センターでの診断や治療を希望される方は、地域医療連携センター経由で耳鼻咽喉科・頭頸部外科の嚥下治療センター外来までご紹介をお願い申し上げます。



嚥下造影検査

嚥下内視鏡検査



多診療科・多職種カンファレンス



新診療科長挨拶 / 精神科 科長

## 富田 博秋（とみた ひろあき）

2018年12月16日付で精神科長を拝命した富田博秋です。1989年に岡山大学を卒業後、岡山、長崎、カリフォルニア等での活動を経て、2006年からは東北大学で精神医療、精神疾患の分子遺伝学的病態の解明研究等に従事して参りました。東日本大震災以降は、東北大学 災害科学国際研究所、同東北メディカル・メガバンク機構に軸足を置いて、被災地域の精神的健康の増進、精神医療保健の復興・防災体制向上並びに、個別化精神医療技術開発に向けた取り組みを行って来ており、これらの課題は現在も継続しています。

精神疾患は脳を中心とする身体機能と密接に結びつく形で精神機能、社会機能に直接問題が顕れます。その

ため精神科では、精神科医、看護師、臨床心理士／公認心理師、精神保健福祉士、作業療法士など多くの職種間の連携が特に重要となります。また、精神科領域で確立されて来ている有効な治療法を医療圏の中で必要とする患者さんに活用して頂くためには、地域の医療・保健機関の間で知識、情報、認識を共有して、精査や治療をタイムリーに提供できる連携体制作りが重要と考えています。一方、精神科の重要な役割に、一般の身体医療の中で起こる精神医学的諸問題に医療スタッフと共同してあたるリエゾン精神医学の実践があり、関連して精神腫瘍学、移植精神医学、周産期精神医学等の専門領域が発展してきています。児童精神医学、老年精神医学、緩和

医療やてんかん、睡眠障害、摂食障害等の診療でも他の診療科と近接しています。

当科はこのような多職種、地域、診療科間の連携を今後、更に深めさせて頂きながら諸課題に取り組んで参りたいと考えています。皆様方より、ご支援、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## Department



総括副院長 高橋哲（たかはし てつ）

## 第4回東北大学病院歯科部門地域連携懇談会を開催しました

## Event

11月8日（金）19時から、第4回東北大学病院歯科部門地域連携懇談会・情報交換会が開催されました。本会は、東北大学病院歯科部門と地域医療機関との間の診療や学術事業の連携をより密に強化するために、顔の見える状態で議論し懇親を深めることを目的として、高橋哲総括副院長の発案で始まり4年目を迎えます。今年度は、地域歯科医療機関から34名、大学からも多くの歯科医師が参加し、合わせて100名を超える参加者を得ることができました。

地域連携懇談会は、歯学研究科実習講義棟B1講義室において行われ、五十嵐薫副院長の開会の辞に続き、高橋総括副院長、佐々木啓一研究科長から挨拶があり、その後、細谷仁憲宮城県歯科医師会会長からお言葉をいただきました。議事では、高橋総

括副院長から、現在の病院歯科部門の現状について紹介があり、地域医療機関からの紹介率の上昇に関して感謝が述べられました。更に大学からの逆紹介率が増加していること、前回の会議を基にした大学の取り組みの報告があり、地域医療連携の推進に関して議論を進めました。

続いて開催された情報交換会では、江草宏副院長の開会の挨拶の後に、東北大学病院に患者さんを紹介いただいた医療機関への感謝状の贈呈式があり、続いて、仙台歯科医師会の小菅玲会長のご祝辞、宮城県歯科医師会の泉谷信博副会長より乾杯のご発声いただきました。多くの参加者が和やかに歓

談し、今後の地域連携に向けて情報交換が活発に行われ、盛会裏のうちに終了しました。

今回の地域連携懇談会・情報交換会の開催にしまして、多くの地域歯科医療機関の皆様、宮城県歯科医師会と仙台歯科医師会にご協力をいただき、心から御礼を申し上げます。東北大学病院歯科部門では、これからも更に医療連携を推進し、地域歯科医療全体の質の向上に貢献できるよう努めてまいりますので、今後ともご協力の程何卒宜しくお願い申し上げます。



新診療科長挨拶 / 総合感染症科 科長

## 青柳 哲史（あおやぎ てつじ）

2019年4月付で総合感染症科長を拝命した青柳哲史と申します。2002年に東北大学を卒業後、東北大学大学院、ミシガン大学留学を経て、現在に至ります。2006年に大学院に入学以降、東北大学病院で一貫して微生物・感染症の臨床・研究に従事してきました。全国の大学病院を含めた病院を見渡しましても、感染症科を標榜する病院は非常に少なく、専門家が不足している領域でありますので、日本をリードする大学病院の感染症科科長となりましたこと非常に身の引き締まる思いです。

当科は第一内科、呼吸器・感染症科と名称を変更し、2012年より現在の総合感染症科となりました。東北大学病院における感染症診療の歴史は長いものの、時代の変化とともに感染

症診療の内容や社会的ニーズは大きく変化しております。当科の特徴として、感染管理室、検査部とタイアップし、医師のみならず薬剤師、検査技師と協力し、感染症の診断・治療（抗菌薬の適正使用を含む）・予防に関する総合的なマネジメントを行っております。特に診療面に関して、外来診療においてHIV感染症、抗酸菌感染症、寄生虫感染症、渡航感染症など専門家が不足している領域の感染症診療はもとより、病院内に入院中の患者さんにおいては診療科にとらわれることなく感染症診断のサポート、抗菌薬の選択や投与に関するアドバイスなど院内コンサルテーションを行っております。

さらに、感染症は微生物が人から人、物から人に伝播する特徴を有しており、個人の問題から施設を超え地域

で対処しなくてはいけない事態も発生します。今後も宮城県、仙台市など行政や東北地方の医療施設と連携し、総合的な感染症のマネジメントに関するサポートも行っていきたいと思っております。

先生方におかれまして、感染症に関するご不明な点は当科をご利用いただければ幸いです。今後とも御指導、御支援のほど心よりお願い申し上げます。



## Department



イベント

## 地域連携オープンカンファレンスを開催しました

## Event

9月9日（月）に良陵会館にて「令和元年度東北大学病院地域連携オープンカンファレンス」を開催しました。この会は「医療と介護のよりよい連携を目指して」というテーマを掲げ、本院の後方支援担当者と、地域の訪問看護ステーション等、院外の後方支援に関わる担当者が直接交流することで顔の見える連携を推進し、円滑な転院・退院調整に繋げることを目的として開催しています。今回は県内の医療機関、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、保健所等へお声がけし、90名（院内31名、院外59名）が参加されました。

前半は消化器内科副科長の小池智幸先生より「東北大学病院における消

化器内視鏡診療の実際～早期癌に対する内視鏡治療、胃ろう造設など～」と題してご講演いただきました。動画をまじえわかりやすく説明していただき、最新の治療について理解を深めることができました。

後半は「医療処置のある患者を地域へつなぐ工夫～病院／病院、病院／在宅～」という内容でグループディスカッションを行いました。様々な立

場から具体的な工夫をお話いただき、それらを共有することができました。参加者からは「顔の見える連携ができた」、「他職種との意見交換により視野を広げられる」等ご好評をいただき、大変実りある会となりました。今後も参加者にとって魅力ある講演内容やディスカッションとなるよう検討を重ね、継続して開催していきたいと考えております。

